

Luupが宇都宮市から委託を受け運営しているシェアサイクル事業において、利用者へのヘルメット貸出の実証実験を実施しました。自転車の前方のかごにヘルメットを配置するほか、いくつかのポートでは希望者が無料で借りられるように準備しました。さらに、スタッフがヘルメットを定期的に除菌するなど、利用者が安心して着用できるように努めておりました。

ヘルメットを簡単に借りられる仕組みは用意したものの、不特定多数の人が借りるヘルメットを共有するのは衛生的にハードルが高いという意見が利用者から強く、また併せて設置した除菌シートのごみが自転車かごに捨てられていることも多く、衛生面の対策をすることによって悪影響も出ておりました。また、荷物を入れるべきかごが使えなくなったというユーザー体験上のデメリットも見られました。

このような背景から、現在はヘルメットをかごから撤去してサービスを運営し、ヘルメットは共有するのではなくマイヘルメットを推進する施策を実施しています。2023年夏、折りたたむことによってカバンに収納して持ち歩くことが可能な、折りたたみ式のオリジナルデザインのヘルメットを制作しました。洗練されたシンプルなデザインで服装を選ばずに着用できるヘルメットを通じて、安全のために「被らないといけない」と感じられるものから、積極的に「被りたい」と思ってもらえるように訴求を続けております。現在は全国での安全講習会（試乗会）時に、利用者様に着用を推奨し、マイヘルメットの重要性を理解していただいています。



CE マーク取得済